

自立活動学習指導案

1 単元名「仲間との関わり方」

2 生徒の実態

本学級は、1年生1名、3年生2名が在籍する自閉症・情緒障がい特別支援学級である。生徒たちは、自学級では仲間とのびのびと生活し、互いの特性を理解し良好な関係を築くことができている。しかしながら、関係性が固定し、馴れ合いから自分の思いのままの言動をとる、自分の思いがあっても主張できずに相手の思いをそのまま受け入れてしまう、うまく言葉で伝えられないため仲間に流されるといった姿も見られる。また、仲間と楽しく関わっていても自分自身の楽しさを優先してしまい、相手の気持ちを無視した身体接触等、マナーに反する行動をとってしまうこともある。交流学級や部活動では、比較的良好に関わることができる生徒もいるが、状況理解や他者理解の難しさから、不適切な言動をとったり、関わること自体を控えてしまったりする姿が見られる。

また、心身の成長に伴い、性に関する興味・関心が高まってきているが、情報の氾濫から不適切な知識を得ていたり、自分自身の性について不安定な認識であったりする生徒がいる。

社会自立を見据えた時、他者と適切に関わっていくことや性に関する正しい知識をもって自分自身や相手を大切にしたい行動をとることが重要であると考え。そこで、特別活動（命の教育）・保健体育・自立活動を通して、自己理解・他者理解につながる正しい知識と具体的な行動スキルを身に付けられるようにしていきたいと考えている。

在籍する生徒の実態…別紙参照

3 単元について

本単元では、中学生の心と体の変化や人と関わる上で必要な社会生活のマナーを学習しながら、自分自身についてや他者との関わり方を学んでいき、実際の生活場面で活用できることをねらいとした。また、この単元では、中津川市全市で行っている「命の教育」を受け、特別支援学級の生徒の実態に応じた指導計画を基に実施する。（「命の教育」については、「5 研究について」に記載）

本学級の生徒の実態と身に付けたい力をふまえて、指導に当たっては自立活動・特別活動・保健体育を組み合わせた単元構成とした。本学級は男子のみの生徒構成のため、指導内容によっては、男子と女子の両方の生徒がいた方が効果的な指導ができる単位時間もある。そのような授業は、特別活動として位置付け、女子生徒が在籍する知的障がい特別支援学級との共同学習として仕組む。指導に当たっては、異学年で構成された学級であるので、それぞれの発達の段階を踏まえて指導に当たる。また、自分自身の体の変化や、日頃見せない自分の内面に関する内容を扱うので、緊張したり恥ずかしがったりしないよう、生徒がリラックスして学習できる楽しい雰囲気作りを大切にしていく。そして、より専門的・具体的な学習ができるようにゲストティーチャーを活用したり、実感を伴う学習ができるよう役割演技や視覚的教材を取り入れたりして、実際の生活場面に結び付くことを意図して工夫した。

4 単元指導計画（自立活動のみ記述。特別活動と保健体育の関連は、別紙参照のこと。）

	主な学習活動	個別の目標	支援	評価
1 時	プライベートゾーンやマナーについて知り、自分自身へのタッチのルールを考える。	A 児 プライベートゾーンやマナーについて学習することを通して、自分自身の行動を振り返り、自分自身へのタッチのルールを考えることができる。 3－（3）、6－（5）	具体物を使って、プライベートゾーンが視覚的に理解しやすいようにする。	自分自身へのタッチのルールについて考えることができる。
		B 児 プライベートゾーンやマナーについて学習することを通して、自分へのタッチのルールを考えることができる。 2－（2）、3－（3）、6－（5）	具体物を使い、体の働きや成長をとらえやすくする。	自分自身へのタッチについて考える事ができる。
		C 児 プライベートゾーンやマナーについて学習することを通して、自分自身の体のプライベートゾーンを理解することができる。 3－（2）、3－（3）、5－（3）	具体物を使って、自分自身の体の変化をイメージしやすくする。	自分自身のプライベートゾーンがどの部分であるかを理解することができる。

2時	自分以外の人へのタッチのルールを知り、嫌な時の断り方を身につける。	※本時の目標を参照		
3時	様々な好きの形を知り、自分の思いの伝え方や、気持ちの受け取り方を役割演技で体験することを通して、すてきな人間関係の作り方を考える。	A児 様々な「好き」の形がある事を知ることを通して、自分の気持ちだけで無く、相手の気持ちを考えることの大切さを知ることができる。 2－(2)、3－(2)、6－(4)	役割演技を通して具体的に体験すること で自分の気持ちや相手の気持ちをとらえやすくする。	すてきな人間関係を作るためには、お互いの気持ちを尊重することの大切さを知ることができる。
		B児 「好き」には、様々な形があることを知り、それぞれの気持ちを認め、受け入れていくことの大切さを知ることができる。 2－(2)、3－(1)(3)、6－(1)	具体的な事例を提示することで自分の気持ちが具体的にイメージできるようにする。	様々な「好き」の形を知り、お互いの気持ちを尊重し合うことの大切さを知ることができる。
		C児 様々な「好き」の形があることを知ることを通して、自分の気持ちだけで無く、相手の気持ちを考えることの大切さを知ることができる。 3－(2)、6－(1)、6－(4)	役割演技を通して具体的に体験すること で自分の気持ちや相手の気持ちをとらえやすくする。	すてきな人間関係を作るためには、お互いの気持ちを尊重することの大切さを知ることができる

5 研究について

数年前市内において尊い命が失われる事件が起こった。このような命を失う悲劇を決して繰り返さないという決意をもち、自他の存在価値を肯定的にとらえ、他者の存在を大切にする関わりを築きながら成長していくことが教育の根幹と考え、そのために市全体として取り組む体制として、「命の教育」を発足した。本校の「命の教育」の概要は、以下のとおりである。

【命の教育の目標】

- ◇個々の命の尊さと生きることの素晴らしさを実感し、命の大切さを意識しながら生きる心情を育む。
- ◇自他の存在価値を理解し、互いの人権を尊重し合う態度を養うとともに、社会の中で、自らがめざす目標に向かって、積極的に生きる姿勢を養う。

これを受けて本校では、生徒の実態を次のようにとらえて取り組みを行っている。

生徒の実態

社会状況の変化に伴い、生徒の周りには性に関する情報が氾濫するようになった。生徒は、興味本位でメディアがもたらす体や性に関する情報にあおられている。生徒のなかには、スマートフォン・インターネットなどを利用して、交友関係が異年齢・広範囲に拡大している者や、有害サイトへのアクセス経験のある者もいる。インターネット上のソーシャル・ネットワーキング・サービスなどの利用についても、その交友関係は無限に広がる可能性があり、いつでもどこで性犯罪につながるか分からない。交際が深まっている交友関係も見られ、性行動へのアクセスが身近になっているのを感じる。

一方で、自己肯定感が低く、人間関係の構築が苦手な生徒や、目標を見出せず毎日寂しい気持ちで生活している生徒もいる。このような生徒が、安易に自分を受け入れてくれる「メル友」と交際を深めていくというケースもある。

自分の体や異性の体についての知識（男性・女性の体のつくり）が十分でない状態で、性への興味・衝動は急速に高まっている。

付けたい力

自己肯定感・自己決定力の育成

- ①性を科学的に学び、自分や異性の体を大切にする心をはぐくむ。
- ②自分の性を意識して、自分らしい生き方を考え、自立心を養うようにする。
- ③同性・異性の心情を学び、どのような関係を築くべきかを決定していく力を培う。

本校の取組

市の計画に沿って単元を組み、3学年とも6～8時間で計画が組まれている（年間計画参照）。学年の特徴によって内容の組み替えや新しいものを取り入れるなど年ごとに工夫して取り組んでいる。

行事の関係や特に3年生の卒業後のことを考え、毎年11月～12月に重点的に授業を行い、学年体制で取り組むようにしている。学級ごとの授業や学年での授業など内容によって授業の形態を変えている。教科としては学活や総合、保健体育、技術家庭科、自立活動の時間として行う。また、外部講師の先生を依頼し、授業に取り組むこともある。

6 本時の目標及び評価

目 標

- ・A 児 役割演技で疑似体験することを通して、自分の普段の姿を振り返ると同時に他者の思いを知り、クラスの仲間との適切な関わり方を考えることができる。3－(2) 6－(5)
- ・B 児 役割演技で自分の思いを言語化したりやりとりの仕方を見たりすることを通して、嫌な思いをしような時は断るべきであることや適切な断り方を知り、自分自身も生活の中で使おうと考えることができる。3－(1) 3－(3) 6－(5)
- ・C 児 役割演技で疑似体験することを通して、色々な立場の人の思いを知り、他者と適切に関わるためにはどうするとよいか、方法を考えることができる。3－(2)、6－(5)

評 価

- ・A 児 役割演技を通して自分の行動を見つめ直し、自分の思いだけで行動するのではなく、相手の気持ちを考えた仲間への接し方を考えることができる。
- ・B 児 役割演技を通して嫌な時には断る方法を知り、嫌な事は嫌だと主張してよいという思いをもつことができる。
- ・C 児 役割演技を通して様々な立場の人の思いを知り、自分の思いだけでなく相手の気持ちも考えて行動する方法について考えることができる。

7 本時の展開

学習活動 ・ 生徒の姿 ☆手立て				配慮事項
	A 児	B 児	C 児	
導入	1 本時の学習の見通しをもつ			・答えられそうな質問を用意して、自信をもって答えられるようにし、緊張をほぐすとともに意欲化を図る。 ・前時の資料を使って、学習したことを確認できるようにする。
	・前時の復習をして、学習への意欲を高める。	・前時の復習をして、学習への意欲を高める。	・前時の復習をして、学習への意欲を高める。	
	2 体の働きとプライベートゾーンを確認し、自分自身へのタッチのルールを復習する。 ・自分の体へのタッチは問題ないが、プライベートゾーンへのタッチは時と場所を考えなければいけない。			
展開	・自分の体へのタッチは問題ないが、プライベートゾーンへのタッチは時と場所を考えなければいけない。	・自分の体へのタッチは問題ないが、プライベートゾーンへのタッチは時と場所を考えなければいけない。	・自分の体へのタッチは問題ないが、プライベートゾーンへのタッチは時と場所を考えなければいけない。	・日常生活の中での課題点やよい点の写真を提示し、自分自身の行動を具体的に振り返ることができるようにする。
	3 普段の生活の中でのタッチのルールについて振り返る。			
	・相手のことを考えずタッチをしていたことが多かった。 ☆普段の生活の中で相手の気持ちを考えていないタッチがある場面を提示し、自分の行動を振り返られるようにする。	・突然タッチをされるのはあまりいい気分ではない。 ☆突然タッチされたときの気持ちを聞き出し全体に広めることで、嫌な思いをしていることについて学級の仲間への理解を促す。	・相手の事を考えずタッチをする事が多い。自分もやってしまうことがあった。 ☆課題点を見たときに、どのような気持ちになったかを聞いて、C 児の思いを言語化する。	
展開	課題：自分以外の人へのタッチのルールについて考えよう			・担任とゲストティーチャーで役割演技を行ってみせることで、第三者の立場から様々なタッチやその対応についての考えを促す。 ・良し悪しを聞きながら、望ましいタッチの仕方や、断り方を具体的に確認する。
	4 教師の役割演技を見てタッチとその対応の仕方の善し悪しを確認する。			
	・演技を見て、タッチと対応が良いか悪いかを判断する。 ☆タッチをする立場に着目させ、その良し悪しとその理由を聞く。	・演技を見て、タッチと対応が良いか悪いかを判断する。 ☆指名して、嫌な思いをしている立場からの思いを問い、その良し悪しの理由を聞く。	・演技を見て、タッチと対応が良いか悪いかを判断する。 ☆タッチをする側とされる側の両者の立場から、その良し悪しを問い、理由を聞く。	
終末	☆「自分以外の人へのタッチには、相手の同意が必要である。また、同意があっても、いつでもどこでもタッチしてもいいと言うわけではない。」ということを生徒の姿を基に確認する。			・生徒と先生の組み合わせで役割演技を行うことで、生徒が様々な気持ちを表出しやすくし、互いの思いをとらえやすくする。 ・演技をした後にどんな気持ちだったかを聞き、立場によって思いが違うことを確認する。
	5 教師と生徒で役割演技をする。			
	不適切なタッチを実際に行ってみて、感じたことや考えたことを話す。 ☆特にタッチをされる側の役割を分担し、感想やそのときの気持ちを聞き出し、タッチをされる人の気持ちに触れる。 評価：役割演技を通して自分の行動を見つめ直し、自分の思いだけで行動するのではなく、相手の気持ちを考えた仲間への接し方を考えることができたか	・嫌なタッチをされる役割を演じた時に、はっきりと断る。 ☆断れたことを認め、日常生活の中でもいかにせるように伝える。 評価：役割演技を通して、嫌な時には断ることができ、嫌な事は嫌だと主張してよいという思いをもてたか。	・役割演技を行い、やってみた感想を話すとともに、相手の思いを聞いて自分と違う立場からの理由を知る。 ☆タッチをする側とされる側の両方の気持ちを想像できるよう促す。 評価：役割演技を通して、様々な立場の人の思いを知り、自分の思いだけでなく相手の気持ちも考えて行動する方法について考えることができたか。	
終末	6 まとめ			・活動を振り返り、全員が発表できるよう時間を確保する。
	・普段の生活と比べて感想を発表する。 ☆前半に提示した資料から普段の生活の中でマナーに反する行動がある事に触れ、それを基に自分の行動を振り返ることができたことを価値付ける。	・タッチのルールと嫌な時の断り方で分かった事を発表する。 ☆役割演技で、自分の思いを言語化できたことを価値付け、今後の生活でも自分の思いを主張していこうという思いがもてるようにする。	・学級の普段の様子を振り返る ☆前半に提示した資料から普段の生活の中でマナーに反する行動がある事に触れ、今後の自分の生活について考えることができたことを価値付ける。	

【A児 3年生】

実 態 把 握	・聴覚過敏の様相がみられる。 ・体を動かすことが好きで、部活動や制作活動等に積極的に取り組むことができる。 ・自分のやりたいことだけを行う傾向が強く、そのときの気分で学習や活動に取り組めるときと取り組めないときがある。 ・相手の反応を面白がって、同じクラスの仲間にちょっかいをかけることがある。 ・大人とのコミュニケーションはうまくとれるが、同年代の生徒とは相互に気持ちを交わすことは苦手である。 ・性に関心をもっているが、家庭でインターネットを閲覧しており、知識に偏りや不適切さがある。
------------------	---

〈収集した情報を自立活動の区分に即して整理〉

健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
・体の成長とともに、性に関する興味が高くなってきているが、正しい知識をもっていない面がある。	・自分自身の興味関心が判断基準の中心になっているため、相手の気持ちや時と場に応じた行動をとることが難しい。	・人と関わるのが好きである。 ・相手の思いを理解することが難しく、自己中心的な考えで人と接してしまう。 ・自分自身の行っている行動を振り返る事が難しく、相手が嫌がっていても行動をコントロールできない。		・運動能力が高く、身体を動かす活動が得意である。	・優位に立ちたいという思いが強く、下学年の子や抵抗しない人に対しては、命令口調で話し、威圧的な指示をすることがある。 ・仲のよい友達であってもマナーがあることが十分に理解できておらず、相手の反応を面白がって相手の臀部等に触ることが多い。

〈いくつかの指導目標の中で優先する目標として〉

指導 目標	・他者と適切な距離や方法で関わるスキルを身に付けることができる。 ・自分と同じように、相手にも思いがあることを理解することができる。
----------	---

〈指導目標を達成するために必要な項目の選定〉

選定された項目	心理的な安定 (2) 状況の理解と変化への対応に関する事。	人間関係の形成 (2) 他者の意図や感情の理解に関する事。 (3) 自己の理解と行動の調整に関する事	コミュニケーション (4) コミュニケーション手段の選択と活用に関する事。 (5) 状況に応じたコミュニケーションに関する事。
---------	----------------------------------	--	---

〈選定された項目を関連付け

具体的な指導内容を選定〉

具体的な 指導内容	具体的な場面を設定し、役割演技等で相手の思いを聞くことで、相手の思いを考えたり理解したりすることができる。	役割演技で疑似体験を重ねていくことで、他者との適切な関わり方や距離の取り方を理解することができる。
--------------	---	---

【B児 3年生】

実 態 把 握	・吃音の影響もあり、自分自身の気持ちを表に出すことを苦手としている。 ・相手とのトラブルを嫌い、頼まれると断ることができない。自分が嫌な事でも引き受けてしまう傾向がある。 ・手先を動かすことが好きで、休み時間等に自作漫画を描いたり、段ボールで工作をしたりしている。 ・女性的な言葉を使うと話がしやすいのか、時々使用している姿がみられる。 ・学級の仲間と仲良く関わることができるが、仲間に臀部を触られても笑ってごまかし、嫌なそぶりは見せない。
------------------	--

〈収集した情報を自立活動の区分に即して整理〉

健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
・年下の同性に気になる子がいることを学級内で話しており、自己の性について混乱が生じている姿がある。	・女性的な表現をすることで安心する姿がある。 ・吃音があり、言葉がすぐに出てこないことやうまく表現できないことに不安があるため、交流学級ではほとんど話さない。	・自分が嫌なことでも、相手とのトラブルを嫌ったり、どのように断ればいいのか分からなかったりして、上手に断ることができずにいることがある。		・手先が器用であり、制作活動が好きである。	・難発の吃音であり、うまく言葉が出てこないため、人と話すことに苦手さがある。 ・自分の気持ちを表現する事に弱さがあり、他の人に自分の思いを伝えることを苦手としている。 ・仲間から不適切な身体接触があっても、相手が笑ってくれる事を期待し、過度な反応をしている。

〈いくつかの指導目標の中で優先する目標として〉

指導 目標	・自分が嫌な思いをしていることを自覚し、嫌なときには嫌だと言うことが大切だと理解することができる。 ・自分の思いを相手に伝える時の適切な対応の方法を知ることができる。
----------	--

〈指導目標を達成するために必要な項目の選定〉

選 定 さ れ た 項 目	心理的な安定 (2) 状況の理解と変化への対応 に關すること。	人間関係の形成 (1) 他者とのかかわりの基礎に 關すること。 (3) 自己の理解と行動の調整に 關すること。	コミュニケーション (1) コミュニケーションの基礎 的能力に關すること。 (5) 状況に応じたコミュニケー ションに關すること。
------------------	---------------------------------------	---	---

〈選定された項目を関連付け
具体的な指導内容を選定〉

具 体 的 な 指 導 内 容	役割演技や具体的な体験活動を通して、その時の自分の様々な思いを言語化することで、自分の思いを自覚することができる。	様々な状況を設定して役割演技をすることで、自分の気持ちを相手に適切に伝える方法を知り、生活の中で使うことができる。
--------------------	---	---

【C児 1年生】

実 態 把 握	・学習意欲が高く、交流学級での学習に進んで参加するが、集団での関わりには苦手さがある。 ・ゲーム等で負けると我慢ができず不機嫌になったり、泣いてしまったりすることがある。 ・手先を使った細かな作業を苦手としている。 ・幼さが残っているが、最近毛深くなってきたことを気にするなど、体の変化を気にしている ・善悪の判断がはっきりしていて、だめなことはだめと伝えることができるが、折り合いを付けることができずトラブルになることがある。 ・注意を受けても、非を認めることが難しい。 ・学級の中で仲間がふざけて体を触っている様子を見て、一緒に面白がってしまうことがある。
------------------	--

〈収集した情報を自立活動の区分に即して整理〉

健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
・毛深くなってきていることを気にするなど、体の変化に気付く、気にしている様子が現れる。	・ルールを理解し、その通りにいくことで安心を得ている。	・自分自身の事を心配して注意をされても、その相手の思いを理解することが難しく、注意されたことにのみこだわり、非を認めることが難しい。	・自ら見通しをもつことが難しく、予想と違うことが起きると受け止めることが難しい。 ・マイペースで周囲の状況に目を向けることが難しく、時間に遅れそうになっても慌てる事が少ない。	・身辺自立はできているが、手先の巧緻性が低く、細かい作業は苦手である。	・注意集中の時間が短いため、集中が途切れると他の子が気になり、活動や学習に取り組むことが難しくなる。

〈いくつかの指導目標の中で優先する目標として〉

指導 目標	・相手にも自分と同じように様々な思いがあることを理解することができる。 ・仲の良い友達との関わり方を理解し、適切な行動ができる。
----------	---

〈指導目標を達成するために必要な項目の選定〉

選 定 さ れ た 項 目	人間関係の形成 (1) 他者とのかかわりの基礎に 関すること。 (2) 他者の意図や感情の理解に 関すること。 (3) 自己の理解と行動の調整に 関すること。	身体の動き (3) 生活に必要な基本動作に 関すること	コミュニケーション (1) コミュニケーションの基礎 的能力に 関すること。 (4) コミュニケーション手段の 選択と活用 に 関すること。 (5) 状況に応じたコミュニケー ションに 関すること
------------------	---	-----------------------------------	--

〈選定された項目を関連付け 具体的な指導内容を選定〉

具 体 的 な 指 導 内 容	具体的な場面設定を行い役割演技を通して、相手の 思いを知ったり考えたりすることができる。	役割演技での疑似体験を重ねることで、他者と折り 合いを付ける方法を知ることができる。
--------------------	---	---

7 本時の展開

学習活動 ・生徒の姿 ☆手立て				配慮事項
	A 児	B 児	C 児	
導入	1 本時の学習の見通しをもつ			・答えられそうな質問を用意して、自信をもって答えられるようにし、緊張をほぐすとともに意欲化を図る。 ・前時の資料を使って、学習したことを確認できるようにする。
	・前時の復習をして、学習への意欲を高める。	・前時の復習をして、学習への意欲を高める。	・前時の復習をして、学習への意欲を高める。	
	2 体の働きとプライベートゾーンを確認し、自分自身へのタッチのルールを復習する。 ・自分の体へのタッチは問題ないが、プライベートゾーンへのタッチは時と場所を考えなければいけない。			
展開	3 普段の生活の中でのタッチのルールについて振り返る。			・日常生活の中での課題点やよい点の写真を提示し、自分自身の行動を具体的に振り返ることができるようにする。
	・相手のことを考えずタッチをしていたことが多かった。 ☆普段の生活の中で相手の気持ちを考えていないタッチがある場面を提示し、自分の行動を振り返られるようにする。	まりいい気分ではない。 ☆突然タッチされたときの気持ちを聞き出し全体に広めることで、嫌な思いをしていることについて学級の仲間への理解を促す。	することが多い。自分もやってしまうことがあった。 ☆課題点を見たときに、どのような気持ちになったかを聞いて、C児の思いを言語化する。	
	課題：自分以外の人へのタッチのルールについて考えよう			
展開	4 教師の役割演技を見てタッチとその対応の仕方の善し悪しを確認する。			・担任とゲストティーチャーで役割演技を行ってみせることで、第三者の立場から様々なタッチやその対応についての考えを促す。 ・良し悪しを聞きながら、望ましいタッチの仕方や、断り方を具体的に確認する。
	・演技を見て、タッチと対応が良いか悪いかを判断する。 ☆タッチをする立場に着目させ、その良し悪しとその理由を聞く。	・演技を見て、タッチと対応が良いか悪いかを判断する。 ☆指名して、嫌な思いをしている立場からの思いを聞いて、その良し悪しの理由を聞く。	・演技を見て、タッチと対応が良いか悪いかを判断する。 ☆タッチをする側とされる側の両者の立場から、その良し悪しを聞き、理由を聞く。	
	☆「自分以外の人へのタッチには、相手の同意が必要である。また、同意があっても、いつでもどこでもタッチしてもいいと言うわけではない。」ということを生徒の姿を基に確認する。			
終末	5 教師と生徒で役割演技をする。			・生徒と先生の組み合わせで役割演技を行うことで、生徒が様々な気持ちを表出しやすくし、互いの思いをとらえやすくする。 ・演技をした後にどんな気持ちだったかを聞き、立場によって思いが違うことを確認する。
	・役割演技で適切なタッチや不適切なタッチを実際に行ってみて、感じたことや考えたことを話す。 ☆特にタッチをされる側役割を分担し、感想やそのときの気持ちを聞き出し、タッチをされる人の気持ちに触れる。 評価：役割演技を通して自分の行動を見つめ直し、自分の思いだけで行動するのではなく、相手の気持ちを考えた仲間への接し方を考えることができたか	・嫌なタッチをされる役割を演じた時に、はっきりと断る。 ☆断れたことを認め、日常生活の中でもいかに伝える。 評価：役割演技を通して、嫌な時には断ることができ、嫌な事は嫌だと主張してよいという思いをもてたか。	・役割演技を行い、やってみた感想を話すとともに、相手の思いを聞いて自分と違う立場からの理由を知る。 ☆タッチをする側とされる側の両方の気持ちを想像できるように促す。 評価：役割演技を通して、様々な立場の人の思いを知り、自分の思いだけでなく相手の気持ちも考えて行動する方法について考えることができたか。	
	6 まとめ			
終末	・タッチのルールと嫌な時の断り方で分かった事を発表する。 ☆役割演技で、自分の思いを言語化できたことを価値付け、今後の生活でも自分の思いを主張していこうという思いがもてるようにする。			・学級の普段の様子を振り返る。 ☆前半に提示した資料から普段の生活の中でマナーに反する行動がある事に触れ、今後の自分の生活について考えることができたことを価値付ける。
	・普段の生活と比べて感想を発表する。 ☆前半に提示した資料から普段の生活の中でマナーに反する行動がある事に触れ、それを基に自分の行動を振り返ることができたことを価値付ける。			
				・活動を振り返り、全員が発表できるよう時間を確保する。

ポイント①
(学習に必然性をもたせる工夫)
実生活場面の中で考えさせたい部分の写真や絵を提示し、本時の課題を具体的にイメージさせ、学習に必然性をもたせる。

ポイント②
(学習内容の理解を深める活動の工夫)
生徒の実態やつまづきの要因を元に意図を持って演技のシナリオ設定を行う。

ポイント③
(学習内容の理解を深める活動の工夫)
役割演技の場面設定や登場人物を明確にし、演技者の誰に注目して見るのかを明確にして演技に入る。演技後に善し悪しとなぜそのように考えたのか理由を聞くようにする。

ポイント④
(学習内容を定着させる活動の工夫)
生徒の実態に合わせて、意図的に指名し役割演技をする。役割演技後にやってみた感想を聞く。

ポイント⑤
(効果的な評価のあり方)
役割演技の中で感じたことを実生活の中で無意識に行っている行動と結びつけ、学習した内容を実践できるように約束を明確にする。
嫌なときの共通のサインを決める。目標回数を具体的に設定する。

板書計画



ポイント⑥

(学習内容の理解を深める活動の工夫)

事前に等身大の図を生徒たち自身で作
り、タッチをされると嫌だと思ふ部分へし
るしをつけることでプライベートゾーンへ
の意識を高くした。

ポイント①

(学習に必然性をも
たせる工夫)

実生活場面野中で
考えさせたい部分の
写真や絵を提示し、本
時の課題を具体的に
イメージさせ、学習に
必然性をもたせる。

ポイント⑦

(学習内容の理解を深める
活動の工夫)

役割演技を見た感想か
ら、それぞれの行為に対す
る。課題点や、良い点を位
置付ける。生徒が役割演技
をするときの演技のポイン
トとして振り返る。

タッチのルール編シナリオ

相手の嫌がることを衝動的に行ってしまう A 児、自分が嫌なことをされてもなかなか断ることができない B 児の実態をふまえたような役割演技のシナリオを準備した。

また、役割演技の内容を明確にするために相手を気遣うタッチと嫌がらせにつながるタッチの 2 つに分けた。その 2 つシナリオの内容をさらにタッチをしてしまう人に注目をしたシナリオとタッチをされる人に注目したシナリオに分けて役割演技を行った。

「相手を気遣うタッチ」	
A 君「悲しい雰囲気ですり込んでいる」 B 君「おい、どうした？大丈夫か？（優しく肩の辺りをタッチする）」	
「嫌がらせのタッチ」	
タッチをしてしまう方に注目	タッチをされる方に注目
（自分を押さえられない） A 君「あー、暇だな何か面白いこと無いかな？」 A 君「お、あんなところに B くんがいるぞ。ちょっとからかってやろ！」 （A 君は、B 君をつついたり、くすぐったりする）	「嫌がらせのタッチ」(タッチをされる方、「受け入れてしまう」) A 君「あー、暇だな何か面白いこと無いかな？」 A 君「お、あんなところに B くんがいるぞ。ちょっとからかってやろ！」 （A 君は、B 君をつついたり、くすぐったりする）
（途中で自分を押さえる、「相手意識」) A 君「あー、暇だな何か面白いこと無いかな？」 A 君「お、あんなところに B くんがいるぞ。ちょっとからかってやろ！」 A 君「でもなー、自分がそんなことされたら嫌だから、やめよ。」 （A 君は、B 君をつついたり、くすぐったりする）	「嫌がらせのタッチ」(タッチをされる方、「受け入れてしまう」) A 君「あー、暇だな何か面白いこと無いかな？」 A 君「お、あんなところに B くんがいるぞ。ちょっとからかってやろ！」 （A 君は、B 君をつついたり、くすぐったりする） B 君「なんだよ、くすぐったいよー」（うけいれてしまう）
（途中で自分を押さえる、「個人内抑止力」) A 君「あー、暇だな何か面白いこと無いかな？」 A 君「お、あんなところに B くんがいるぞ。ちょっとからかってやろ！」 A 君「でもなー、人が嫌がることをすると、後でお母さんにしかられるからなー」 A 君「やっぱりやーめた。」	「嫌がらせのタッチ」(タッチをされる方、「はっきりと断る」) A 君「あー、暇だな何か面白いこと無いかな？」 A 君「お、あんなところに B くんがいるぞ。ちょっとからかってやろ！」 （A 君は、B 君をつついたり、くすぐったりする） B 君「なんだよ、くすぐったいよー。本当に嫌だからやめて！！」（断る）
（途中で自分を押さえる、「外的な抑止力」) A 君「あー、暇だな何か面白いこと無いかな？」 A 君「お、あんなところに B くんがいるぞ。ちょっとからかってやろ！」 A 君「でもなー、人が嫌がることをするのは、犯罪と同じだからなー」 A 君「やっぱりやーめた。」	